

【英国】

1月の市場動向トピックス

- 2018年1月の訪日英国人数は、前年同月比4.4%減の19,900人であった。
- 個人消費の冷え込みによる英国の外国旅行需要全体の鈍化傾向や、ビジネス需要の低迷などに加え、昨年1月末にあった旧正月休暇が今年は2月中旬となったことにより、旧正月休暇の影響を受ける英国人の訪日需要が抑えられ、訪日者数は前年同月を下回った。
- 一方で、継続的な訪日旅行プロモーションの効果などにより、旅行先としての日本の認知度が高まっており、訪日旅行への関心自体は引き続き旺盛である。

1月の主なプロモーション活動

- JNTO ロンドン事務所では、来年に迫ったラグビーワールドカップ 2019 に向けて、旅行業界および地方自治体と連携し、魅力的なワールドカップ観戦旅行商品の造成を支援している。1月は、同大会における英国のオフィシャルトラベルエージェント(*)を招請し、試合が開催される大分、神戸、大阪、横浜、東京のスタジアムを各自治体の協力を得て視察した。

(*)ラグビーワールドカップ 2019 の観戦チケット付きパッケージ旅行商品の販売権を持つ公式旅行代理店。13 の国から21 社が公式旅行代理店として選定されている。

- 1月15日～20日に、英国の富裕層を対象にしたメディア5名を招請し、白馬、苗場スキー場などの視察を支援した。英国では、日本のパウダースノーと温泉の人気が高まっており、北海道の他に、長野県や新潟県のスキー場も注目されている。英国市場では、今後も、ラグビーワールドカップ 2019 の観戦やスキー体験など、スポーツ愛好者層を重点ターゲットの一つとして力を入れていく。



オフィシャルトラベルエージェント招請



スキーメディア招請